

# かまざ



揮毫 伊藤茂男氏

鎌田地区  
平成30年3月1日現在  
世帯数 8,858戸  
男 9,944人  
女 9,496人

発行所 鎌田地区公民館  
公民館報編集委員会

## 元気なあいさつで地域を明るく

### あいさつは心と心をつなぐ第一歩

小島 重喜 (鎌田地区子ども会育成会長)

1月から鎌田地区町会連合会と子ども会育成会では共同して地区内の児童・生徒への「あいさつ声かけ運動」を始めました。これは「地域の宝」とも言える地区内の子どもたちを地域の皆さんが温かく見守っていたくとも、地域と子どもたちとの結びつきをより一層強くしたいとの願いによるものです。今回の運動のきっかけは、かねてより鎌田小学校が独自に「2」のつく日を「あいさつ」

## あいさつーの日

小山 淳一 (前鎌田小学校長)

鎌田小学校では、ここ数年アンケートで「子どもはきちんとあいさつしているつもりなのに、大人は子どものあいさつがあまりよくないと感じている」という結果が続いている状況を改善しようとしていました。

日々の子どもの姿から、子どものあいさつの仕方に要因があるのではないかと考え、一昨年から毎月2のつく日を「あいさつーの日」として、「つむりのあいさつ」から「伝わるあいさつ・つながるあいさつ」へと子どもの意識を転換するためのあいさつ運動を展開し、内外に協力を呼びかけることにしました。



人は本来、アナログを本性とするものであり、心のこもった生の声で会話を交わすことが今求められているのではないでしょう。これは子どもに限らず大人にも当てはまります。

近所付き合いも疎遠になる中で、大人たちが積極的に子どもたちに声かけをするとも、大人もお互いに「心と心をつなぐ」あいさつを交わし、地域を明るく盛り上げる運動に広めていきたいものです。

町会連合会では「明るく元気にあいさつ」と染め抜いたのぼり旗を100本作製して各町会に配布しました。当面軌道に乗るまで、町会やPTAの役員、民生児童委員などが中心となって、学校のあいさつ励行日等に児童・生徒の通学路で声かけ運動を展開していますが、この運動には地区内すべての皆さんに誰彼問わずご参加いただきたいと考えております。ご理解とご協力をお願いします。



## 街かどの話題 140 スポーツ吹き矢で健康維持



南原町会 小倉 利夫

住民の健康・交流を目的に、毎週木曜日南原公民館でスポーツ吹き矢を行っています。現在会員は約20名で参加者同士教え合いながら楽しく汗を流しております。会員の中には有段者(初段〜3段)もあり、春・秋開催の「松本市民スポーツ吹き矢大会」や松本アルプス支部主催の「20レーン大会」にも約10人が参加し、腕を磨いております。また、信明中

学校の総合学習の時間にスポーツ吹き矢を教えるお手伝いもしております。

活動を始めてから3年が経過しますが、まだまだ経験が浅く、互いに教え合いながら頑張っています。スポーツ吹き矢は誰もが気軽にでき、正しい基本動作と腹式呼吸法で健康に役立つと思います。町会問わずどなたでも参加できますので興味がある方はお気軽にご参加ください。



## スポーツのすそ野を広げよう! 「さわやか健康教室」を開催

地区体協が

2月3日、鎌田地区体育協会の主催による「第8回さわやか健康教室」が西部体育館で開催されました。小学生から大人まで約100人の参加者が、ストラックアウト・ピーンボーリング・ピロポロなどゲーム感覚で楽しめる8種目のニュースポーツを、町会の垣



根を超えた班編成で体験しながら親睦を深めました。

体育協会の鎌倉弘行会長(両島)は今後の抱負を「町民の皆さんが気軽にスポーツと触れ合う機会として、今後は卓球やフットサル、ソフトバレーなどの初心者向けスポーツ教室の開催も企画していきます」と語っていました。

松本山雅FCの応援など「見るスポーツ」だけでなく、「するスポーツ」も大いに楽しんで、鎌田地区のスポーツ愛好者のすそ野を広げましょう。

鎌田地区の歴史②

よかねんぶつ あしなか  
両島のお八日念仏と足半



鎌田地区 両島では江戸時代から続く伝統の「お八日念仏」と足半」を毎年2月8日（近年は祝日の11日）に行っています。この行事は国の選択無形民俗文化財・松本市重要無形民俗文化財にも指定されており、現在は鎌倉・井口・竹田の3姓、12戸が「両島八日念仏足半草履保存会」を組織して伝承に努めています。

当日は朝、各戸の木戸先で疫病神を防ぐためのヌカエブシ（糲穀や唐辛子などをいぶす）を行ない、その後保存会の会員が集まり、足半と呼ばれる草履2つと数珠縄作りに取り掛かります。足半はかかとの部分がないう草履で、長さ120センチ、幅80センチの型枠にワラ縄を巻き、編み込

んで作ります。出来上がると両島公民館の和室に棒を組み、由緒ある「南無阿弥陀仏」の軸と仏画の軸を並べて掛け、祭壇を作り団子を供え、足半を立て掛けて飾ります。全員で参りした後、僧侶のなりをした音頭取り（その年の当家の代表）が鉦をたたくのに合わせ、大きな数珠を皆で回して念仏を唱えます。

念仏が終わると足半を両島の南と北の町境まで運び、木の枝の高い所に前年から掛けていた足半を外し、新しい足半を取りつけます。保存会の会則帳によると、江戸時代に松本

藩主の堀田氏から大数珠を授かって数珠回しを行なったのがこの行事の始まりで、大きな足半を村の南北の入口に掛けることで、村に入り込もうとする疫病神に対し「この村にはこのような大きな草履を履く大男がいるぞ」と示して、村への侵入を防ぐ役割を果たしたと記されています。

行事の伝承に向けては保存会員の高齢化が課題ですが、若手会員も少しずつ増えており、3年前からは町の小学生（5年生・6年生）にも参加を呼び掛け、当日の作業の手伝いを通して地元の伝統行事への理解と関心を深めてもらっています。

保存会会長の鎌倉太郎さんは「いつの時代になっても、健康で安心して過ごせるよう願う気持ちは皆に共通しています。この伝統ある行事を地域の交流の場としても末永く後世に伝えていきたい」と語っています。



地域づくりに携わって



鎌田地区地域づくりインテーン

塚原 有香

平成27年度から松本市地域づくりインテーン期生として、鎌田地区地域づくりセンターを拠点に3年間活動してきました。

当初は、知識も経験もない私に何ができるのかと悩むときもありましたが、地区公民館や福

また、3年目にはお宝発掘事業のまとめとして「鎌田お宝マップ」を作成させていただきました。皆様にお配りするマップには、鎌田地区の文化財や資源はどんなお宝があるのか、マップを片手にぜひ地区内を回っていただけたら嬉しいです。

地域の皆様のおかげで無事、任期を終えることができました。ありがとうございました。



よりお宝の様子  
ワークショップ  
(H29/11/11)

後期高齢者といわれる年齢から、もう数年も過ぎた。何かの折に「いい年をして」と、ふと思ってしまう自分がいる。

しかし、一方では年のことなどまったく気にしないで生活している自分もいる。先日、心療内科医の海原純子氏の随筆の中にこんな一文を見つけた▼「年齢についての認識は、年だからもうだめ」という意識から自由になることかもしれない。年齢はどうでもいい。自分が集中し、熱中し、休みがなく疲れ切ったときに体の要求にこたえて休む。それが心地よく年を重ねるのに大事なことでないかと思う▼これを読んで、私自身がいつの間にか「年寄り」だと思いつ込み、自らの言動にブレーキを掛けて生きているのではないかと感じた▼大人には、程度の差はあれ「分別」の力についていると思うが、時には、その分別とやらを忘れて、行動することがあってもいいのではないか。それが法律に触れなかったり、周りに嫌な感情をもたらさないものなら、分別などを捨てることであっても、許されるような気がする。

(横山 新治)